

## タイヤ単体騒音対策検討会（第2回）議事要旨

1. 日時 平成 22 年 3 月 5 日（金）10:00～12:00
2. 場所 日本自動車会館 くるまプラザ会議室 第1-第2会議室
3. 出席者
  - 【座長】 金子 成彦（東大）
  - 【検討員】 石濱 正男（神奈川工科大）、大野 英夫（自工会）、中島 幸雄（タイヤ協会）、溝上 喜美男（自工会）、山本 貢平（小林理研）、押野 康夫（JARI）
  - 【オブザーバ】 小西 哲（タイヤ協会）
  - 【関係省庁】 岩田室長，多田室長補佐，傳田係長（環境省），平澤課長補佐（国交省）
  - 【事務局】 （財）日本自動車研究所
4. 議事（要旨）
  - ① 国内のタイヤの騒音実態調査の結果について  
タイヤ騒音に関する実態調査の結果とタイヤ単体騒音規制を導入した場合の定常走行騒音規制の廃止に関する検討結果について、事務局より説明した。主な意見、コメント等は次のとおり。
    - ・ タイヤ騒音では、路面も重要な要素なので、測定の際の路面性状を明確にしておくべきである。
    - ・ タイヤの磨耗により音がどのように変わるかも把握しておく必要がある。
    - ・ 偏磨耗がなく正常に磨耗すれば、溝が浅くなり騒音は低下する傾向となるが、偏磨耗した場合には騒音が上昇する場合もある。
  - ② タイヤ単体騒音規制導入による道路交通騒音低減効果予測について  
各種道路交通騒音予測モデルにおける JARI モデルの位置付け，JARI モデルを使用する理由，JARI モデルの改良点について事務局より説明した。意見等は次のとおり。
    - ・ Harmonoise/Imagine モデルは JARI モデルと同様に音源をパワーユニット系騒音とタイヤ/路面騒音を分けて扱う分離型モデルであるが，予測精度の検証結果が公開されていないので，不適當である。一方，JARI モデルは実測による検証が行われているので，JARI モデルが適當と考える。
  - ③ 関連業界へのヒアリングについて  
次年度の第1回検討会で実施予定の業界（タイヤ協会，自工会）に対するヒアリングの項目について，環境省より説明があった。次回の検討会において，タイヤ協会より次の点について説明いただくこととなった。
    - ・ タイヤの騒音発生に関する原理・原則
    - ・ 偏磨耗がどのような場合に生じるのか
    - ・ 偏磨耗による騒音の変化
  - ④ 平成 22 年度の実施計画案について  
平成 22 年度の実施計画案について事務局より説明し，承認された。

次回，検討会（ヒアリング）は7月に開催する予定となった.